

「自分ごと」だけでなく「自分“たち”ごと」(一人称“複数”)で語る人権教育を  
～今こそ「集団づくり」の継承と改革を～



# 夏季セミナー 府立人研だより

(Web開催)

大阪府立学校人権教育研究会事務局  
2021年6月29日 第4号発行

第1日 7/28 (水)

11:30 12:30 13:30 14:00 16:30

内容	接続 テスト		受付		分科会
----	-----------	--	----	--	-----

午後 分科会 人権教育分野別セミナー

第1セミナー (教材部会) 【定員100名】

## アジアの平和について考えるHR

報告：布施北高等学校

アジア、特に中国や韓国・北朝鮮との関係が悪くなると、排外的な報道が増える傾向があるように感じます。そのような状況のなかで外国にルーツのある生徒が、自尊感情を傷つけられたりするなど何らかの影響を受けることも考えられるのではないのでしょうか。

布施北高校では朝鮮半島と日本の歴史をふり返り、友好関係の持続について考えるホームルームを実施し、現在問題となっている「ヘイトスピーチ」などの排外的な動きだけでなく、「18歳選挙権」についてもふれました。そこで国籍の異なる仲間が存在を認識することで、この問題を自分たちに関係のあること(自分たちごと)として考えることができるような工夫をされています。

人権ホームルームをするとき、ついつい他人事として終わっていることはないですか？ どうすれば自分たちの問題として捉えることができるのか一緒に考えていきたいと思います。

第2セミナー (ケーススタディ部会) 【定員100名】

## チームで生徒を捉える ～カフェからの「気づき」を通じて～

講師：奥田 紗穂さん (一般社団法人 office ドーナツトーク)

報告：佐野工科高等学校定時制の課程、西成高等学校

生徒一人ひとりに対して教職員や外部機関等、様々な角度からのとらえ方により、生徒の状況や家庭環境が見えてくる場合があります。

生徒が気兼ねなく会話したり相談したりできる取り組みである、「居場所カフェ」。そこでの会話から今まで見えていなかった生徒の実態が見えてきます。

今回の夏季セミナーでは、「居場所カフェ」のしくみや現状、「様々な観点で生徒の状況をつかむ」ポイント等をお話していただきます。学校で困っていることや、悩んでいることをたくさんの先生方の方から解決に導いてくれる情報が得られるかもしれません。教職経験年数の少ない先生をはじめ、たくさんの先生方の参加をお待ちしております。他にも、困っていることがあればケーススタディ部会へ！奮ってご参加ください！

第3セミナー (進路保障部会) 【定員100名】

## いまこそ「しんどい子どもを中心に据えた集団づくり」を

講師：黒田 光さん (大阪成蹊大学・短期大学 教育研究支援統括本部 教職キャリアセンター長)

金一 宣久さん (元府立学校 校長)

感染も貧困も個人の自己責任にしてしまうのがいまの社会の風潮になっています。いずれ社会に出ていく子どもたちに保障すべきなのは、その社会に“適応”する教育なのか、それとも社会を“変革”する教育なのか。同和教育・人権教育では“全員進路(進級・卒業)”を目標とし、もっとも厳しい背景をかかえた子どもを中心にすえた集団づくりの実践を積み重ねてきました。知的障がいのある子どもも含めて、すべての子どもの進路保障を求め、かつて展開された中学校と高校の実践から学び、いま我々にできることは何なのかを一緒に考えてみませんか？



## 第2日 7/29 (木)

9:30 10:00

12:00

13:00 13:30

15:00 15:20


16:50

内容	受付	全体会	受付	分科会 前半	受付	分科会 後半
----	----	-----	----	-----------	----	-----------

### 午前 全体会 【定員 500 名】

7/29  
(木)

10:00  
|  
12:00



## 競争社会だからこそ、人権を大切にすることが必要

### ～三つの力・三つの原則・三つの文化を重視しよう～

講 師：山中 多美男さん（社会福祉法人ノーマライゼーション協会 理事長）

新学習指導要領の理念は、約 50 年前に同和教育が提起した「解放の学力」と驚くほど一致しています。子どもの自己実現と同時に、人権社会の実現に寄与する力（持続可能な社会の創り手）の育成が指導要領において明確に重要視されたのです。コロナ禍を通して人権の観点における社会の脆弱性が浮き彫りになるなか、差別を容認する学校や社会を追及し、その克服を訴えてきた同和教育・人権教育に学ぶことの意義は非常に大きいと言えます。

OECD が PISA 学力を提起した当初から「解放の学力」との共通性を指摘されてきた山中多美男さんからお話を聞き、子どもたちに保障すべき“生きる力”とは何なのか、公教育を担う教職員はどう子どもたちに向き合うべきなのかについて深く学び、考えてみたいと思います。

### 午後 分科会 人権教育実践・入門セミナー（二部形式）および教頭部会

**第1工房（部落問題学習）**

**【定員 100 名】**

## 他校の実践を知り、これからの部落問題学習に活かそう


講 師：武田 緑さん（教育ファシリテーター、Demo 代表）

報 告：豊島高等学校、金剛高等学校、府立人研「部落問題学習」チーム

7/29  
(木)

分科会  
前半

13:30  
|  
15:00



少ない時間の中で様々な人権課題に取り組むことが多くなった近年、部落問題を学ぶ十分な時間が確保することが難しいのが各校の現状ではないでしょうか。あるいは、人権ホームルームの担当になり、「どう展開していけばいいのか？」と悩みながら教材を作成している方もおられると思います。そこで今回は、複数の府立学校からの実践報告と参加者の方々の疑問・質問から、府立学校における部落問題学習の現状と課題を探っていきます。また、異なる視点から、教育ファシリテーターの武田緑さんにもお話しいただきます。各校の状況を出し合い、部落問題学習を実施するためのヒントをつかみましょう！

**第2工房（性差別撤廃教育）**

**【定員 100 名】**

## ジェンダー平等に向けて

### ～奈良女子大学のトランスジェンダー学生受入れの視点から考える～

講 師：三成 美保さん（国立大学法人奈良女子大学 教授）

13:30  
|  
15:00

「日本って男女平等やん？」「ジェンダー平等なんて日本ではもう達成されてるじゃない？」なんて思ったことはないでしょうか。しかし、SDGs（持続可能な開発目標）に「ジェンダー平等の実現」が掲げられているにも関わらず、日本は 2021 年のジェンダーギャップ指数において 120 位（156 カ国中）と低迷しており、世界の潮流に取り残されているのが現状です。本分科会では奈良女子大学の三成美保教授を迎え、「ジェンダー平等を日本でも達成するためにどのような教育をしていくのか」についてご講演いただきます。

また、奈良女子大学が M+F のトランスジェンダー学生の受入れを始めてから 1 年余り経ちます。受入れ体制を整えるまでの経緯等もお話しいただきます。性的マイノリティ当事者の生徒にどのような支援や対応が必要か、この機会と一緒に考えませんか？

### 第3工房（障がい者教育）

【定員 100名】

## 共生推進教室の設置校の取り組みに学ぶ

～一人ひとりのニーズに応じた支援とは～

報告：緑風冠高等学校、東住吉高等学校

7/29  
(木)

分科会  
後半

15:20  
|  
16:50



共生推進教室は、高等支援学校（在籍校）と府立高等学校（設置校）が連携し、知的障がいのある生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行い、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する制度です。週1日は“在籍校”の高等支援学校で職業に関する専門教科を学び、週4日は“設置校”の高等学校で授業を受けています。“在籍校”と“設置校”が連携するなかで、どのような指導をしているのか、生徒はどのような学校生活を送っているのか、“設置校”である高等学校のご担当の先生にさせていただきます。

多様化する生徒のニーズに対して、どのようにアプローチしたら良いのか、どのような支援のあり方があるのか、教職員の体制づくりはどのように行うのか、実践報告を通して考えていける場にしたと思います。

### 第4工房（多文化教育）

【定員 100名】

## 子どもと向き合い、支援する

～Minami こども教室の実践に学ぶ～

講師：Minami こども教室実行委員会

Minami こども教室は外国にルーツがある子どもたちを対象とした学習支援教室です。ここへ通う児童生徒は当初、小学校3年生から6年生までが対象でしたが、中学・高校へ進学してからも子どもたちの居場所を提供するため、現在は幅広い年齢層の子どもたちが通っています。コロナ禍で家庭状況が厳しくなっていることもあり、他の団体とも協力しながら子どもたちの支援にあたっておられます。

この教室では1対1の支援と対話を重視し、子どもたちの言葉の幅を広げることを重視しています。しかし、日本語の習得は難しく、学習面でも多くの課題があります。どのように子どもたちへの学習サポートをしているのかを話していただき、今後も増えていく外国にルーツのある子どもたちの課題を考え、支援のあり方を学んでいきます。

### 校長部会

延期

今回の夏季セミナーでは、校長部会を準備しておりましたが、講師を予定している武庫川女子大学の橋本光能教授のご要望もあり、集合形式で行う形を優先させていただき、12月6日（月）の府立人研校長部会 全体研修会に延期いたします。夏季セミナーは、全体会を中心にご興味のある分科会に是非ご参加ください。

### 教頭部会

【定員 500名】

7/29  
(木)

14:30  
|  
16:50



## ネット人権侵害と部落差別の現実

～「寝た子」はネットで起こされる！？～

講師：川口 泰司さん（一般社団法人 山口県人権啓発センター 事務局長）

2016年12月、「部落差別解消推進法」が成立・施行されました。その背景には、インターネットやSNSを悪用した差別の悪化・深刻化があります。爆発的に拡散され続けるデマや偏見。『部落地名総鑑』がネット上に公開され、部落と部落出身者を「暴き」「晒し」続ける差別扇動が起きています。

もう、「寝た子を起こすな」は通用しない。無知・無理解・無関心な人ほど、デマ・偏見を鵜呑みにし、差別情報を無自覚に拡散しています。コロナ禍で問われた差別の課題、部落差別の「いま」、ネット対策、人権教育の重要性について考えます。

## ◆参加申込について◆

1. 別紙【参加申込および連絡票】により、**7月15日(木)必着**で、  
府立人研事務局までメール ([furitsujinken@nifty.com](mailto:furitsujinken@nifty.com)) または FAX (06-6324-3822) で  
お送りください。
2. 資料代として 1,000 円が必要です。  
事務局で申し込みを確認後、所属校(事務室)宛に請求に関わる書類をお送りします。  
書類が届き次第、2週間以内に別紙【開催要項】に記載している振込先にお支払いください。

## ◆セミナーへの参加方法について◆

今年度の夏季セミナーは、Web 会議システム「Zoom」でリアルタイム配信します。  
別紙【府立人研夏季セミナー 参加方法】をご確認いただき、事前準備をお願いします。

### 当日の参加方法(概要)

- ①府立人研ホームページ (URL: <http://furitsujinken.in.coocan.jp/>) から、  
夏季セミナー用「ログインページ」にアクセスしてください。
  - ②参加者種別・ご所属・お名前・討議資料に記載してあるパスワードを入力してご参加ください。
- ※事前の申込内容と当日の入力内容が異なる場合、参加の承認ができません。

## 府立人研 教材・資料開発プロジェクト 部落問題学習チーム

### 『部落問題学習 教材・資料提言集』

これまで府立学校で取り組まれてきた部落問題学習の教材だけでなく、これからの部落問題学習を構想するヒントがたくさんつまった一冊です。今回の夏季セミナーとともにいかがですか？

詳しくは府立人研事務局までお問い合わせください。

## 府立人研 大阪府立学校人権教育研究会

〒533-0024 大阪市東淀川区柴島 1-7-106 府立柴島高等学校内  
(通送便は「府立人研」とお書きください。)

TEL・FAX 06-6324-3822 (直通) (お電話の場合は、火曜日をお願いします。)

E-mail [furitsujinken@nifty.com](mailto:furitsujinken@nifty.com) (お問い合わせは、なるべく Eメールをご利用ください。)

ホームページ URL <http://furitsujinken.in.coocan.jp/>



↑府立人研 HP も  
チェックしてくださいね

\*「府立人研だより」の掲示・配布をお願いいたします。各校の人権教育の充実にお役立ていただけましたら幸いです。\*